

王滝村 議会だより

平成26年
7月号



御嶽山開山祭（7月1日 御岳ロープウェイ）

26年度一般会計補正予算他	2P ~ 5P
一般質問	6P ~ 10P
木曾広域連合議会定例会報告	11P

No. 124

26年度一般会計補正予算 王滝村税条例改正など13議案を可決

一般質問には三浦、吉田、立花の3氏が登壇

6月定例会は17日に開会、2日目を24日に再会し、王滝村税条例の改正のほか条例改正4件、条例の制定1件、平成25年度専決補正予算2件、平成26年度補正予算は一般会計1件、特別会計2件で、うち一般会計は、各区のほか地域の協働活動を行っている団体からの要望に基づく補助金(絆助成事業)、大又の公衆トイレの全面改築など新規事業が盛り込まれた。また、固定資産税評価委員の選任同意など人事案件2件、消防ポンプ積載車売買契約の締結承認1件の計13議案全てを原案どおり可決し閉会した。

2日目に行われた一般質問は3名が行った。

可決された議案は以下のとおり。

- 平成25年度王滝村一般会計補正予算(第8号) 専決処分
- 平成25年度王滝村特別会計後期高齢者医療費事業補正予算(第2号) 専決処分
- 王滝村税条例の一部を改正する条例
- 王滝村国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 王滝村非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例
- 王滝村木材工芸品等加工施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 王滝村空き家等の適正管理に関する条例の制定
- 物品売買契約の締結について
- 王滝村固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めること
- 王滝村農業委員会委員の推薦について
- 平成26年度王滝村一般会計補正予算(第1号)
- 平成26年度王滝村特別会計国民健康保険診療施設費補正予算(第1号)
- 平成26年度王滝村特別会計農業集落排水事業費補正予算(第1号)

一般会計補正予算

- ・準骨格型の当初予算に新たな政策予算を肉付け
- ・瀬戸村政3期目の初年度が実質スタート

2月の村長改選にかかる経緯から3期目の初年度となる今年度の当初予算では、一部の新規事業を積み残した「準骨格型予算」となったが、今回の補正予算にはこれらの政策予算が盛り込まれた。平成26年度一般会計補正予算歳入歳出補正額はそれぞれ1億5,610万円あまりで総額17億6,808万2千円となった。

主な内容は以下のとおり (※予算額表記は10万円未満切り捨て)

【歳出】

〈総務課〉

- ・老朽危険家屋除去補助金 1,000千円
(※空き家等の適正管理に関する条例の制定により、該当物件の除却費助成金)
- ・小川村営住宅駐車場舗装 4,800千円

〈村おこし推進課〉

- ・ GND事業小水力発電施設 11,000千円
- ・ 絆助成事業補助金 6,400千円
- ・ 地域商品券1,500セット 18,700千円

〈経済産業課〉

- ・ 観光地トイレ整備(大又) 35,200千円
- ・ 村道維持補修工事 27,000千円

〈教育委員会〉

- ・ 小中学校トイレ等改修 28,400千円

【歳入】

〈村おこし推進課〉

- ・ GND事業(小水力発電)県基金補助金 9,400千円
- ・ 地域商品券販売収入 15,000千円

〈経済産業課〉

- ・ 観光地トイレ整備県補助金 13,000千円

〈総務課〉

- ・ 財政調整基金繰入金 113,800千円

特別会計農業集落排水 事業費補正予算

- ・ 国の老朽インフラ対策の一環として王滝地区、野口地区処理場、管路の機能を調査、診断

下水道事業が完了して約20年が経過しているため、処理施設、管路を総合的に点検調査、機能診断を行い後年の計画的維持、改修に資するもの。

〈経済産業課〉

- 【歳出】 調査委託料 4,500千円
- 【歳入】 県支出金 4,000千円



天候不順で延びていた御嶽山への荷揚げ

【一般会計補正予算質疑】

問(田中) まず、今回の補正予算の概要を財政的見地から見ると所要歳出額1億5,610万円余りに対して基金(貯金)充当が1億1,380万円と非常に多く、準とはいえ骨格予算とした当初予算に続くもので、3期目に入った村長の政策意欲を感じずるものだ。主なものは、条例を整備して「空き家問題に取り組むこと」、区やその他の団体の要望により、地区内の共同体や地域活動を高めるための「絆助成事業」、2年目を迎えた「グリーンニューディール事業」、「小中学校のトイレ等の改修」、3回目となる「地域振興券の発行」などが挙げられるが、これらが今回追加して肉付けされた政策予算の目玉と認識しているところだが。

答(村長) 既に手掛けてきたものや予算規模は地味ながら私なりに自負している他の事業もあるが、主な事業としてはそのとおりだ。

問(田中) 予算質疑に入る前に冒頭の村長行政報告でおんたけ交通停留所対面の民地における駐車場等土地利用構想について進入路、その他の利用案等で関係者と具体的な協議を始めたと述べたが、進入路確保のこともそうだが、近接地には民間の有料駐車場もあるのでこれらとの機能分担を図りつつ、村の中心地ということで植栽、造園などの環境整備の仕方によっては、多くの村民が等しく憩えるオアシス広場も夢ではない。予算も設計もこれからだろうが、とりあえず駐車場と舗装で面的整備しただけの何処にでもあるようなつまらない空間にだけはして欲しくない。各層からのアイデアなど住民中心の志高いコンセプトで計画に臨んで欲しい。また、村が先に取得した貴重な歴史的旅籠建物の一時保存(案)についても慎重な調査と並行して費用対効果を厳しく検証すべきかと思う。

答(村長) 先に行政報告で触れた民地の面的利用構想のことだが、進入路など周辺関係地権者等と協議中と述べたが、難しいとの意味合いではなく、非常に前向きで協力的に協議をさせていただいているということだ。

問(田中) グリーンニューディール(GND)事業の第二弾目として今年度中越区の用水路に小水力発電施設を設置する経費として約11,000千円計上された。農業用水路の場合、特に増水時や厳冬期の管理に苦労しているのが各地の現状だ。ゴミ除去を含む日常の点検管理は別途専従者を置くのか。

答(村おこし推進課長) 村の担当職員で対応する。

問(田中) 今回の補正で6,400千円計上されている「絆助成事業」について伺う。

7区4団体から申請があったと聞いているが、審査を通して補助採択された一覧表(箇所付表)の資料提出を求める。

問(田中) この一覧表は初めて見させていただく。

17事業が載っているが、今回の採択率は何%だったのか。また、「王滝村絆助成事業実施要綱」というA4一枚の簡単なものは手元にあるが、これによると助成手続きは(一般的な)「王滝村補助金交付規則」によるとなっている。全体事業費が100万円を超えるようなものもある村単補助事業に積算方式やその他の採択基準など必要最小限の項目を定めた補助要綱がないというのは、公平性などで将来混乱が生じないか。特に住民ボランティアによる協働作業を通じて地域の元気を喚起するとして趣旨なのに人件費、工賃に関する積算規定もないというのは正直、理解に苦しむ。また、この事業は来年度以降も継続実施するのか。

答(村おこし推進課長) 今回の申請に対する採択率は件数金額とも100%だ。この事業の補助金交付要綱や規則はない。住民の自主的事业への支援ということで来年度以降も続けたい。



2位に入賞した木曾郡ポンプ操法大会

問(田中) この一覧表を見ると要望件数の半分程度が労務(工事)を伴うものだが、補助要綱では、労務はボランティア原則となっている。特殊な技能や機械、工具が必要なものは専門業者に任せるとしても草刈、整地、取り壊し、片付け、撤去処分、清掃など、一般の人でも出来る労務奉仕がどの程度か積算明示されていないようであれば、業者への丸投げもありうる。だとするとこの要綱の大目的であるボランティア労務を原則とした「コミュニティの健全な発展」とは随分とかけ離れたものになるのではないか。

ボランティア労務をやる人など数人しかいないという地区もあることは承知しているが、一人でも二人でも良い訳で、この基本原則を始めからなし崩しにしてしまうのは如何なものか。また、一覧表にある別荘管理組合というのは、要綱基準からやや外れるのではないか。また、事業実施実績の書類や現地確認、支払いはどういう事務の流れになるのか。

答(村おこし推進課長) 業者見積そのままの要望書もあるが、その他の手伝いなどで区民等が出来ることもあると思われるので今後そのように要請なり指導をしていきたい。支払いは高額のものもあるので、出来高に応じた概算払いなども考慮している。別荘地の管理組合は行政区にはなっていないが、現在、10戸の住民登録がある。組合では周囲の環境整備、除雪なども協働しておこなっており、「営利団体」という認識はしていない。

問(田中) 労務奉仕などについては、区毎の事情はそれぞれあるので一様には言えないが、この事業の本旨は「協働」ということにあるので、少なくとも「一部の人が専門業者に依頼して何か修繕したらしいが、多くの区民が知らなかった」というようなことにならないよう事業趣旨に沿った実施運用に努められたい。

答(総務課長) 労務の中には特殊技術とか危険を伴うものもあり、そういうものについては通常の労務単価見積にならざるをえないものもある。この事業の目的である協働の地域づくりという趣旨が全ての事業で満たされているかについては、論議のあるところだが、初年度としては、ふるうよ

り極力拾いこむという方針になった。今後色々な角度から検討を行い、地域力の向上について必要な点があれば軌道修正もしていきたい。

問(田中) 企画費予算で一部組み替えのあった地域おこし協力隊事業について。

先ほどの村長行政報告の中で、養蜂、チーズづくり、野菜に興味をもって取り組んでいる隊員の紹介があり、できれば将来の永住の期待にも触れていたが、これらの加工販売面は別としても生産技術的には住民の中に優れた方が何人もいる。今のところは個々の試行錯誤の段階だが、そのうちには協力隊事業として固有のコンセンサスを持った地域おこし事業になるのか私を含めて多くの住民が知りたいと思う点だ。隊員は最長3年間、国の支援を受けられると聞いているが村は、業務の可能性とか成果の期待等について年度ごとに評価のようなことをするのか。

答(村長) 正直なところ、王滝村の諸条件下で小規模の養蜂、チーズ、野菜がそのまま生業や村の経済活性になるとは思わない。ただ、専門家とは違う目線でどんなことが可能か3年かけて自由に発想してみるということが大事だと思う。せっかく緒に就いた芽を摘みたくないとの見地から当面検証も評価もしない考えだ。高度な生産技術や加工販売を学ぶなら、専門家に頼むなりそれなりの方法がある。この種の事業とは大分異なる性格ということで、住民の皆さんにはしばらく見守って欲しいと考えている。

問(立花) 崩越に建築するバス待合所建築工事について、夜暗くなってからバスに乗れなかった方があったと聞いているが、街灯についてどうなっているか。



兄妹仲良く 大きく育って！



村が明るくなったイルミネーション

答(総務課長) 防犯灯について考慮していきたい。

問(立花) イルミネーション事業については、別途効果を検証すべきと思うが、今回設置委託料として54万円が計上されている。これは毎年かかるものか。

答(村おこし推進課長) 高い所への設置作業になるため、毎年費用がかかる。

問(立花) そういうランニングコストは、昨年度予算審議では説明がなかった。ほかの事業に対する50万100万という支出が見送られることもある中で、たった4ヶ月(12月～3月)のためにこの金額を毎年支出するのはいかなものかと思う。事業の効果検証と今後についてはしっかりした見直しをもって進めていただきたい。

問(立花) 学校トイレ改修に2840万円余が盛られている。何箇所のうちいくつ修繕され、和式と洋式の数はどれくらいになるか。また、工期はどうなっているか。

答(教育次長) 現在8か所のトイレがあり、男子小用を除いて和式が27、洋式が6、障がい者用が1である。和式の半数を洋式へ、体育館に男女ともバリアフリー化のものを各1ずつ設置予定である。また、体育館のトイレはグラウンド側からの入り口の段差をなくし引き戸にする。工期は3ヶ月、長期休みを利用して、よく使うトイレから改修していく。

一般質問「そこが知りたい」

本文は答弁も含め質問者の執筆をもとにしています

行政連絡費について他 三浦征弘

■行政連絡費について

問（三浦）今年度から50万円増額された、これは私の要望に村長が応じてくれたと理解し感謝をしています。欲を言えばもっとほしい。ところがこの配分に疑問を感じる。計算か方法かに間違いはないか。

答（総務課長）間違いはありません。集会施設等管理費については、平成25年管理費実績額の90%上限15万円を算入しています。

問（三浦）それが分からない。人口割り35%、世帯割り35%、均等割り30%で計100%になる、これではその理由が入る余地はない。特に野口区と滝越区があまりにも少ないではないか。

答（総務課長）間違っておりません。

■自然湖について

問（三浦）この湖は全国的に有名になっている。これを出来るだけ永く維持していかねばならないが誰がやるべきだと思うか？

答（村おこし推進課長）村と総合観光事務所である。

■学校のありについて

問（三浦）中学校統合の話である。3月議会では教育委員会の方針を示されたが、今回は村長自身の考えを伺いたい。

答（村長）統合とは複数あるときに使う言葉である。村には一つしかない。

問（三浦）言葉のアヤを言っているのではない、学校の将来を聞いているのです。

答（村長）教育委員会の考えと同じである。

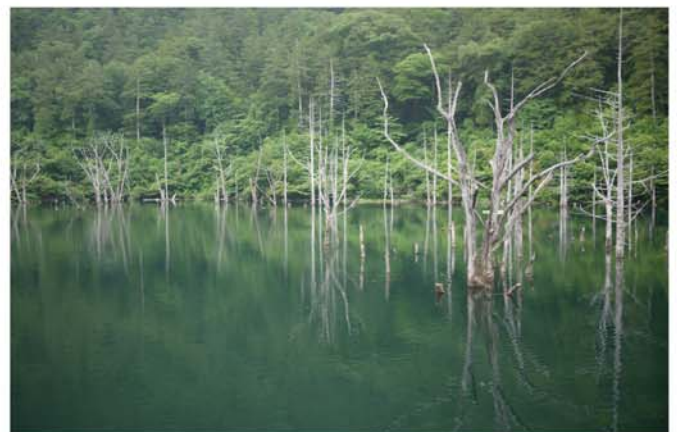
村の観光施策について他 吉田広史

■村の観光施策について

問（吉田）国では8月11日、県では7月の第4日曜日を「山の日」として制定した。今後は当村でも御嶽山を中心とした観光をより強化、推進していく必要があると思うが、村長は今後、登山道の整備、トイレの設置、田の原観光センターや山小屋など、さらには村のPR活動についてどのような対応を考えているのか。

答（村おこし推進課長）御嶽山の登山道整備についてはその都度必要に応じて実施していきたいと考えている。今年度については、赤っぱげの整備に216万円予算化されている。登山道のトイレの整備については必要性は感じているが、維持管理も難しく、逆にイメージダウンにつながる可能性もあるため、今のところ設置の予定はない。田の原観光センターや公衆トイレ、山小屋については魅力ある観光地として、どう整備するか検討する必要があると考えている。PRについては木曾観光連盟などと連携しながら御嶽山の魅力を発信していくほか、下流域との交流もさらに深めていく。

問（吉田）田の原、清滝、新滝、自然湖、滝越など、村の観光スポットへの案内看板をもっと増やすことはできないか。また、いま点灯されていない街灯を復旧することはできないものか。



新緑の自然湖

答（村おこし推進課長）スキー場方面県道256号線を銀河ライン、滝越方面 県道486号線をどんぐりラインとし、星のシンボルマーク、どんぐりのシンボルマークをイメージした広域、中域の誘導サイン、大型看板を設置している。今後冬期間のことも踏まえ、観光客の安全で効率的な誘導を考え、トイレの誘導も含めて観光総合事務所で検討協議の場を設けて頂ければありがたい。

街路灯は村内に190か所あるが、財政難のうちに点灯を半分以下に減らしていた。現在徐々に復旧を図っている。予算の範囲内でしか復旧はできないが、できれば六段橋から村内までの完全復旧を進めていきたい。

要望 自然湖や滝越、あるいは御岳山へのルートについて、県道も含めて、お客様目線に立ったわかりやすい案内ができるよう努めて頂きたい。



御嶽山頂上山荘のトイレ

問（吉田）長野県の「山岳高原を活かした滞在型観光地づくり研究会」に木曾町エリアが選ばれているが、王滝村はこれには全く関わっていないのか。

答（村おこし推進課長）王滝村はこの構想には関わっていない。今後木曾町との広域連携について県とも相談している。村としても御嶽山の魅力を発信していく上で、広域連携は非常に有意義と考えている。この構想に参画が可能であれば木曾町と連携し、ぜひとも取り組んでいきたい。

要望 木曾町エリアがモデル地域として指定されているということだが、今後は木曾町に対して積極的に働きかけ、出来る限り情報を共有し、王滝村も交えた御嶽山の観光振興に努めて頂きたい。

問（吉田）今年は、バレーボール、陸上を中心に合宿人数がさらに増えると聞いているが、グラウンドや体育館の整備、受入れ体制は整っているのか。投擲サークルや跳躍エリアはこれから発注と聞いているが、間に合うのか。また、体育館の電気のブレーカーがすぐに落ちるといった問題は解決しているのか。

答（村おこし推進課長）松原スポーツ公園の工事については現在発注事務を進めており、合宿の受入れまでにはには全ての設備が整う予定である。体育館の電気については、今のところ問題解決には至っていないが、このまま利用者に不便をかけることは、イメージダウンにもつながるため、利用者の減少の恐れがあると認識している。節電対策としてスポットライトや蛍光灯をLEDに変更するなどの対策を進めていきたいと考えているが、アンペアブレーカーを大きくすることについては費用面も含めて調査し今後検討していく。

問（吉田）アンペアブレーカーの容量を大きくすることについては検討中であるということであるが、そうすると今年度も電気が落ちるといった状況もあるということか。

答（村おこし推進課長）それについては、費用面を調査し、今年度中に可能であれば対応していきたい。

要望 合宿の人数も年々増えている。今後につなげるためにも、お客様がより満足できる環境の提供をお願いしたい。

■過疎化対策について

問（吉田）「日本創成会議」で全国896の市町村が消滅の危機に直面するといった試算が発表されているが、王滝村もまさに例外ではないと思う。

これまで村長は、子育て世代や医療、福祉といった面で、充実した支援を行ってきたと思うが、それでも人口減少に歯止めはかかっている。

村長は今後、人口流出を防ぎ、さらには増加させるための施策は何か考えているのか。

答（村長）定住人口の確保は必要なことと認識しているが、人口減少に歯止めはかかっているのが実情である。現在、第4次長期振興計画が進行中で、6年後の人口を765人と見込んでいるが、施策いかんではさらに減少する場合もあると考えている。これまでの施策の検証を実施し、今後の重点施策を明確化していく。少子高齢化問題は1自治

体で解決するためには難しい問題でもあり、国の政策も考慮しながら進めていきたい。即効性があり持続性がある施策は大変難しいが、国の政策も含め多くの意見を取り入れながらより有効性の高い施策を実施していきたい。

要望 難しい問題ではあると思うが、村の存続にも関わることであり、今後は、産業経済の発展、住民サービスの向上などを踏まえ、そうした施策に取り組んでいただきたい。

■スキー場運営の関わりについて

問（吉田） 今年度はスキー場担当職員を配置したが、村も金銭的支援をしていることでもあり、今後は運営に関して、運営会社との連携をより密にし、営業方針についても、村民や村側の要望などを伝え、それを反映できるような体制はとることができないものか。

答（総務課長） 基本協定に基づき営業方針については運営会社を尊重している。今年度よりスキー場担当職員を配置しており、諸課題への対応を図っている。住民、観光業者等から要望があれば、出来る限りスキー場へ足を運び伝えていきたい。村、観光事業者、スキー場が連携を密にし、協力体制を大事にしながら展開していくことが、スキー場を盛り上げていく牽引力になると考えている。これまでの反省点、結果も踏まえながら、今後はよりプラスになるような対応に努めていく。

要望 地域住民と運営会社が良い関係を保ち、一体となってスキー場を盛り上げていけるよう努めていただきたい。



国際大会が行われたおんたけ2240スキー場

活性化基本構想について他 立花裕美子

■活性化基本構想について

問（立花） ①3月に活性化基本構想が策定され、その具現化に向けて村おこし推進課が新設されたと認識している。村おこし推進課の年間計画及び中長期的な計画を示していただきたい。

答（村おこし推進課長） 今年度中に活性化基本構想を実施するための計画を作る。また、前期基本計画の検証を行い、活性化基本構想と整合性を持った後期基本計画を27年度末に立てる。

問（立花） この3ヶ月の成果と、課内で進め方を加速すべきとの意見はないか。

答（村おこし推進課長） 成果は特に挙げられないが、地域おこし協力隊と新しいことに取り組んでいることを理解いただきたい。

問（立花） 課内打ち合わせは定期的に行われていると思うが、どれくらいの頻度か。

答（村おこし推進課長） 大きなものは3回程度、必要に応じて担当係とその都度実施している。

まとめ 新規事業に取り掛かるのだから、打ち合わせはもっとあっていいと思う。3期目の村長の施策を実施していくために力強く押し進めていただきたい。

問（立花） ②活性化計画を実行していく上で、村民との協働がポイントになってくると思われるが、その手法はどのように考えているか。

答（村おこし推進課長） 村民・事業者幅広く考えている。

問（立花） 村民・事業者幅広くという答はベストなのだろうが、もっと具体的な動きが知りたかった。基本構想は事業対象者の記述が曖昧で、特に事業を実施する側のイメージが湧かない。担当者としてどのくらいの心当たりがあり、どのくらいの手応えを感じているか。

答（村おこし推進課長補佐）薬草栽培は既に栽培しているグループに示し検討いただいている。エコメディカルツアー関係は、県際交流会で着地型観光を目指し事業化の目途が立ってきた。カヌーツアーも進んできている。その他はこれからというところである。

問（立花）基本構想の一覧表にある26年度着手で難易度が易く優先順位の高いもの3項目（薬膳・フィールドミュージアム・伝統食品）について、進捗を教えていただきたい。また、その他に進んでいるものがあったら教えていただきたい。

答（村おこし推進課長補佐）伝統食品については名城大学とコラボして夏かぶに関して進めている。難易度易いものより、中程度のものに取り組んでいるので、薬膳に関してはまだ取り掛かっていない。

まとめ すべてをやるわけではないと理解している。しかし何もやらなければ、140万余の予算をかけて作った意味がなくなるので、是非進めていただきたい。

問（立花）③村長選公約の「やらまいかプロジェクト（仮称）」は、どのように進んでいるか。

答（村長）村民の意見交換の場を設置したいと思っている。26年度に村おこし推進課を設置、その後、仕事づくり・環境づくり・人づくり・暮らしづくりといった部門別推進チームを作る。チームは村おこし推進課、地域おこし協力隊、外部アドバイザー等で組織、予定に沿って進めている。

まとめ 外部アドバイザーには、無報酬で来ていただける方もある。活用してみてもは。またUターンIターン者で20代から30代前半の方が、ひところより増えている。長振の委員には各団体の代表者という考え方が定着しているが、それも含め、是非若い方の意見を聞く仕組みを整えてほしい。

■地域おこし協力隊について

問（立花）①総務省の地域おこし協力隊推進要綱によると、「地方自治体は、地域おこし協力隊員の意向を尊重し、関係する各機関や住民等とも必要な調整等を行ったうえ、あらかじめ地域協力活動の年間プログラムを作成し、地域協力活動の全体をコーディネートするなど、責任をもって地域おこし協力隊員を受け入れること」との記載があ

るが、当村4名の協力隊員は、この項目に沿って活動を保証されているか。

答（村おこし推進課長）自治体の役割が大きいことは認識している。年間計画はないが、1週間から10日単位の日程調整を行いながら進めている。隊員の思いを踏まえ、提案により50万円を目途に活動費を配分している。

問（立花）隊員にもよるが、意向や提案が尊重されていないことも感じる。2点伺いたい。隊員からの事業の提案について将来性や必要性を判断するのは、どの部署の何人が関わっているか。判断基準は設けられているか。

答（村おこし推進課長）推進課で判断している。判断基準は特に決めていない。

問（立花）事業の見通しが立たない、将来性がないという判断で協力隊員の提案を制限したことはないか。

答（村おこし推進課長）ない。

まとめ 協力隊員の提案をすべて受け容れるべきだと言っているのではない。提案事項を1人の職員の判断で制限したり、本来役場職員がすべき仕事を協力隊員まかせ、丸投げしたりするのは謹んでほしい。また、提案が簡単に事業化できなくても、村にとって本当に必要な事業ならば取り組むべきである。提案は尊重しつつ、ある程度の判断基準に従って複数の職員で公平に精査し、取り掛かったら積極的にバックアップしていただきたい。



ふれあい運動会でのひとこま

問（立花）②活動費の年間計画を示していただきたい。

答（村おこし推進課長）年間計画はないが、支払状況と見込みを見ながら使っている。大まかには、生活や活動に必要な住居費・車両・パソコン等備品購入に700万円、活動経費に300万円を見込んでいる。

問（立花）活動経費とされている諸負担金が、当初予算300万円から150万円が消耗品費へ組み替えられた。この内訳と何人の隊員からの提案によるものなのか。

答（村おこし推進課長）養蜂事業関係消耗品と農業事業関係消耗品で2人からの提案によるものである。今後、特産品開発と山村都市交流事業を目的とした接客・体験プログラム研修に50万円ずつを予定している。

問（立花）購入したものが物品として残った場合、隊員の任期後はどう扱うか。

答（村おこし推進課長）パソコン等の備品は村へ返却してもらう。

問（立花）③3月議会予算審議の際、再募集は行わないとの答だったが、再募集に至った経緯について伺いたい。

答（村おこし推進課長）「性急に募集はせず、村が推進する事業に対しての技術を有していたり、関心興味があり事業推進に熱意のある方を募集していきたい」と答えた。村はエネルギー地産地消の村を目指して、今回は再生可能エネルギーや木質バイオマスに特化した事業推進のための隊員を募集することとした。

問（立花）確かに「再生エネルギー・木質バイオマスに関する事業」という記載はホームページの募集要項に示してあった。しかし文字の大きさが関連事業の表記と同じで、特化しての募集と理解しにくい。もう少し目立つようにしたほうがよかった。今現在、応募はあるか。6月30日までになかったらどうするか。

答（村おこし推進課長）今のところ2名応募があり、7月5日に面接を行う。

■少子化対策について

問（立花）①少子化対策について、これまで質問し、いくつかの提案もしてきたが、村はことごとく否定的であった。ではどのような施策を考えているのか。3期目の村長はそろそろ村民に示す必要があると思うがいかがか。

答（村長）山村交流センターの方向性と里親制度の2点だと認識している。少子化問題は国全体の重要な課題であり、様々な要因が絡んでいるため、一分野の施策だけでは解決できない。就職から結婚、出産、育児といった各段階に即した施策が必要。国・県と連携を図り、先進事例を調査研究して当村の実態に即したものがあれば、展開していきたい。

問（立花）大きな提案は2点だった。それ以外に庁内ワーキンググループや子育て懇談会の提案をした。それに対する返事は「拒むものではないが、現時点では考えていない」とのことだった。保育料原則無料・給食費無料についてはもっとPRするように提案した。さきほどの地域おこし協力隊募集要項の中にその文言は、付け加えているか。また、転勤やIターンなどで当村へ移り住んで、この制度の恩恵にあずかっている人の声を村のパンフレットやブログ等に載せたことはあるか。

答（村長）質問後、ホームページに盛り込んだ。村おこし推進課も軌道に乗ってきたので、やっていきたい。財源をにらみながら、子育て支援センターや不妊治療に関する補助等も検討していきたい。

問（立花）②保育料・給食費に住宅をセットでという考えは伺ってきたし、事実4軒の世帯向け住宅は建設されたが、その後の計画はないか。



銀河村キャンプ場のレンゲツツジ

答（村長）普通交付税の臨時費目分の減少が見込まれるため、財政状況が厳しくなることが予想される。ここ2・3年の状況で推移すれば、実施可能だったが、無理になってくる。財政状況次第である。

まとめ 「王滝村子育てブログ」を作って、王滝村の子育て環境のよさをPRしてもらうことを提案したい。村内の子育て中の方に、例えば学校の運動会や保育園の遠足、どんぐり広場のもちつきなど、行事や日々の子育ての様子を発信してもらう。是非取り組んでいただきたい。



育林作業が行なわれました

平成26年木曾広域連合議会 第2回定例会（報告）

（会 期）6月2日 1日間

（上 程）議第8号 平成26年度木曾広域連合一般会計補正予算（第1号）

（補正額）6,727千円とし、補正後の予算総額を2,883,382千円とした

（主な補正）主に職員の異動による人件費の補正。

議第9号 平成26年度木曾広域連合介護保険特別会計補正予算（第1号）

（補正額）1,981千円の減額補正とし補正後の予算総額を4,038,583千円とした

（主な補正）人件費（職員の異動による給料、手当など）の減額によるもの。

【全員協議会】次の四項目について説明を受け了承した。

- ① 新ゴミ焼却施設整備基本設計について
- ② 木曾地域在宅チーム医療を担う人材育成事業について
- ③ 介護保険高齢者実態調査について
- ④ ケーブルテレビのアナログ放送の終了について

議会推薦農業委員会委員選任

王滝村農業委員会委員の任期満了に伴い議会推薦農業委員として、新たに家高幸代さん（中越）が選任された。

任期は平成26年7月20日から

平成29年7月19日まで。

固定資産評価審査委員会委員再任

固定資産評価審査委員の任期満了に伴い地方税法の規定により、松越勝人さん（東）の再任について同意した。

任期は平成26年8月1日から

平成29年7月31日まで。

請願と陳情

6月定例会で審議された請願・陳情等の採択・不採択状況は下記のとおりです。

●「地域づくりの為の公共事業の積極的取組及び事業執行における協会等地元事業所への配慮を求めるもの」要望書（資料配布）

●「労働者保護ルール改悪反対を求める意見書の採択に関する陳情書」（資料配布）

●「集団的自衛権についての憲法解釈変更をしないよう関係機関に意見書を提出することを求める陳情」（採択）

●「集団的自衛権の行使は憲法上許さないとする政府見解の堅持を求める陳情」（採択）

以上陳情2件の案件を採択し、関係機関へ意見書を提出した。なお、要望1件と陳情1件については資料配布扱いとした。

編集後記

屋根の庇、石垣といったところに必ずといって良いほど、アシナガバチ、イシカケバチが巣を作りますが、そういった光景が例年に比べ少ないような感じがします。また、鳥の巣（特にカケスの巣）が人間の手の届く高さに巣を作っているのが確認されます。

ハチが低いところに巣を造る、また、鳥が低木に巣を造る年は、台風の上陸が多い、あるいは大きな台風が接近する、といった先人者達の言い伝えがあります。はたして、今年はどうなるのでしょうか。（謙）

議会日誌

4月

16日 木曾郡町村議会議長会（木曾町日義）

18日 王寿会定期総会（村公民館）

21日 県際交流会（南木曾町）

24日 議会全員協議会

28日 例月出納検査（3月分）

5月

1日 招魂社慰霊大祭（八幡堂）

〃日 木曾広域連合議会福祉環境常任委員会
（木曾町日義）

8日 議会育林作業（春山）

14日 木曾郡町村議会議長会（木曾町日義）

20日 木曾郡広域連合議会運営委員会

21日 木曾町商工会通常総会（木曾町福島）

22日 木曾郡広域連合議会福祉環境常任委員会
視察研修（伊那市ほか）

26日 例月出納検査（4月分）

〃日 議会運営委員会

28日 第39回町村議会議長・副議長研修会（東京）

29日 〃

6月

1日 小中学校運動会

〃日 ふれあい運動会

2日 木曾広域連合議会定例会（木曾町日義）

3日 木曾南部直轄砂防推進協議会総会
（南木曾町）

4日 木曾地域交通網対策協議会総会
（木曾町日義）

9日 議会全員協議会・議会運営委員会

10日 木曾郡防犯協会総会（木曾町日義）

13日 議会6月定例会（開会）

23日 木曾郡広域連合議会経済観光常任委員会
視察研修（名古屋方面）

24日 議会6月定例会（閉会）

〃 議会だより編集特別委員会

25日 例月出納検査（5月分）

27日 みどりのバトン実行委員会

29日 木曾郡ポンプ操法大会

7月

1日 御嶽山開山祭（三岳ロープウェイ）

2日 愛媛県西予市議会行政視察

8日 木曾郡町村議会議員総会（上松町）

15日 議会報124号発行